

【茶室史2】 四畳から六畳以上の茶室

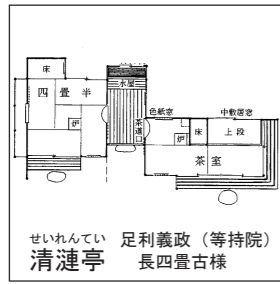
15~17C 戦国~安土桃山~江戸

18C 江戸

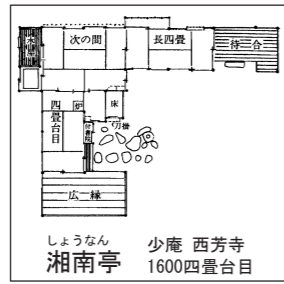
19C 江戸~明治

20C 大正~昭和

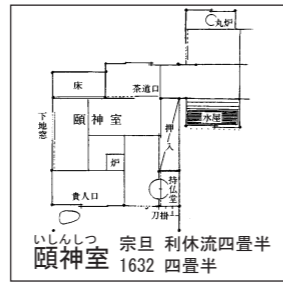
四畳
四畳半



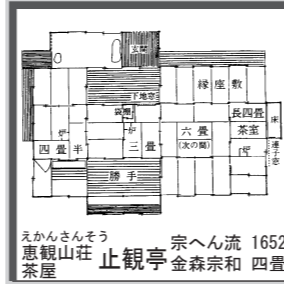
せいれんてい 足利義政(等持院) 清漣亭 長四畳古様
長四畳古様



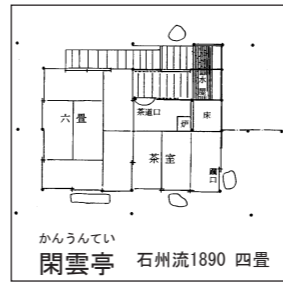
しょうなん 少庵 西芳寺 湘南亭 1600四畳台目
慶長年間に再興



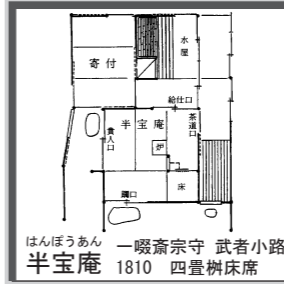
いしんしつ 宗旦 利休流四畳半 頤神室 1632 四畳半
利休流床の入隔塗回す 墨蹟窓なし



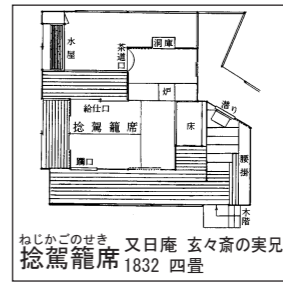
えかさんそう 宗へん流 1652 惠観山荘 止観亭 金森宗和 四畳 茶屋
後陽成院の皇子の一条昭良の山荘



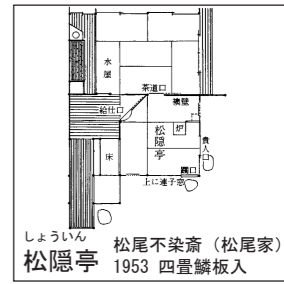
かんうんてい 閑雲亭 石州流1890 四畳
間取りは半宝庵



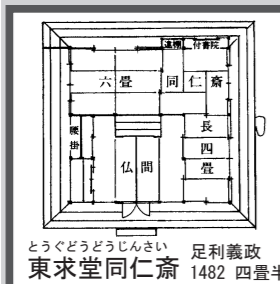
はんぼうあん 一嘯斎宗守 武者小路 半宝庵 1810 四畳樹床席
罫口は二枚引違い



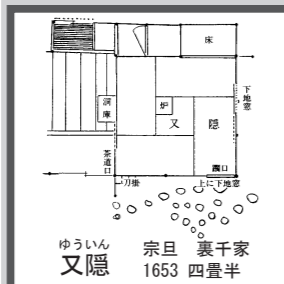
ねじかごのせき 又日庵 玄々斎の実兄 又日庵 1832 四畳
床の間 貴人座に重心を置く



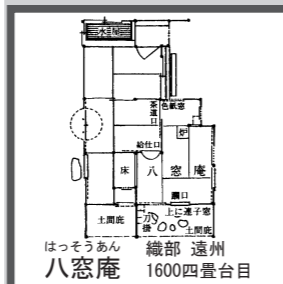
しょういん 松尾不染斎(松尾家) 松隠亭 1953 四畳鱗板入
矩折に罫口と貴人口



とうきゅうどうじんさい 足利義政 東求堂同仁齋 1482 四畳半
書院造り 居間兼書齋



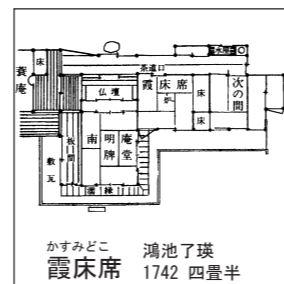
ゆういん 宗旦 裏千家 又隠 1653 四畳半
利休聚茶屋敷



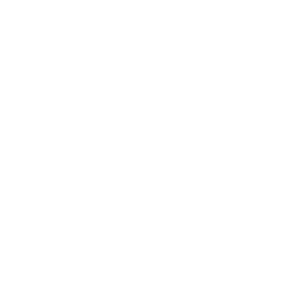
はっそうあん 織部 遠州 八窓庵 1600四畳台目
茶道口給仕口を矩折 客座中央に罫口



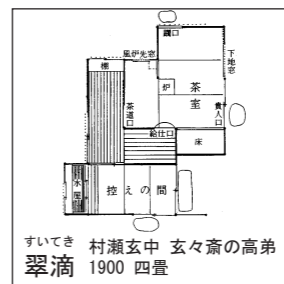
てんせつどう 表千家如心齋 卒啄齋 点雪堂 1740 四畳半台目二畳
十世吸江齋により完成 道安囲



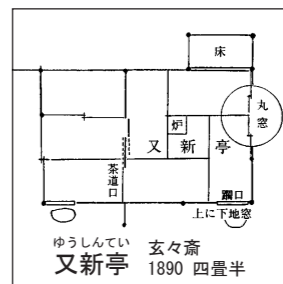
かすみどこ 鴻池了瑛 霞床席 1742 四畳半
葦庵の鎖ノ間 格天井 張付壁



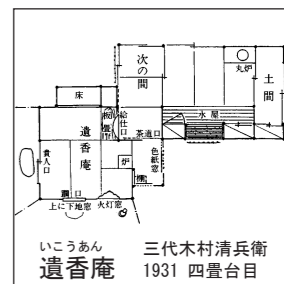
ひとうてい 光格天皇 飛瀟亭 1800 四畳半
茶事の可能な施設



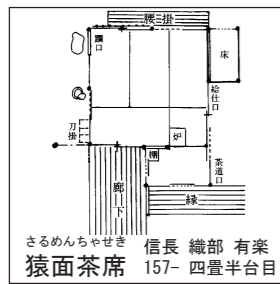
すいてき 村瀬玄中 玄々斎の高弟 翠滴 1900 四畳
村瀬玄中は玄々斎の高弟



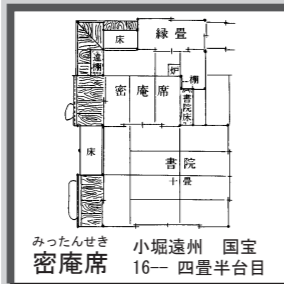
ゆうしんてい 玄々斎 又新亭 1890 四畳半
又隠写し 客座側の丸窓 中敷居窓



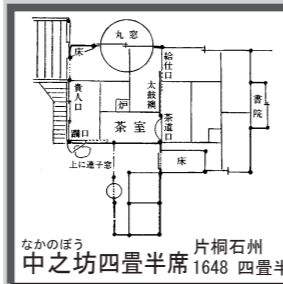
いこうあん 三代木村清兵衛 遺香庵 1931 四畳台目
織部、遠州の好んだ間取り



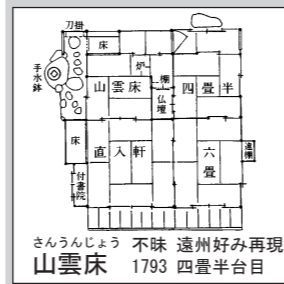
ざるめんちやせき 信長 織部 有楽 猿面茶席 157- 四畳半台目
貴人口は責子縁から



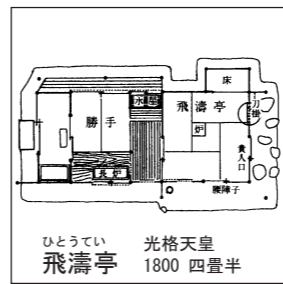
みつあんせき 小堀遠州 国宝 密庵席 16- 四畳半台目
書院のデザインで大名茶の風格



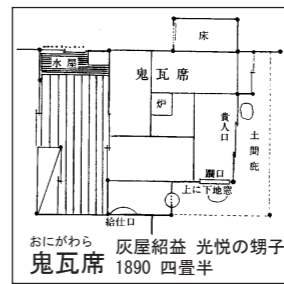
なかのぼう 片桐石州 中之坊四畳半席 1648 四畳半
丸窓 下地窓 罫口 貴人口と明るい



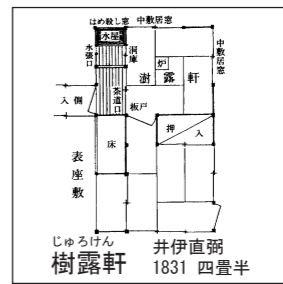
さんうんじょう 不味 遠州好み再現 山雲床 1793 四畳半台目
密庵席写し



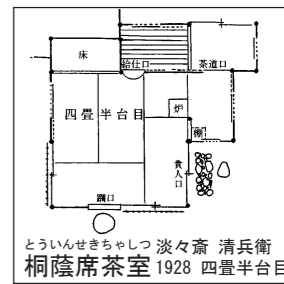
ひとうてい 光格天皇 飛瀟亭 1800 四畳半
茶事の可能な施設



おにがわら 灰屋紹益 光悦の甥子 鬼瓦席 1890 四畳半
又隠写して開放的 書齋的

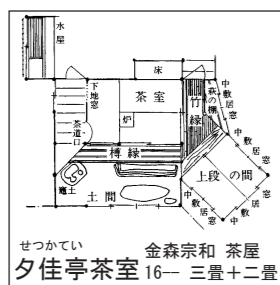


じゅりゅうけん 井伊直弼 樹露軒 1831 四畳半
床なし

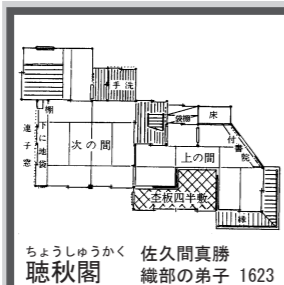


とういんせきやしつ 淡々斎 清兵衛 桐蔭茶室 1928 四畳半台目
間取りは猿面茶室

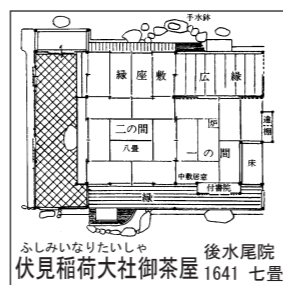
六畳以上



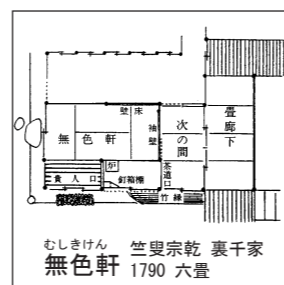
せつかいてい 金森宗和 茶屋 夕佳亭茶室 16- 三畳十二畳
前面を開放し土間を設ける



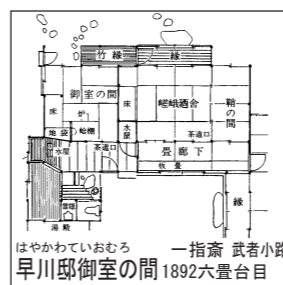
ちょうしゅうかく 佐久間真勝 聴秋閣 織部の弟子 1623
三溪園内に移築



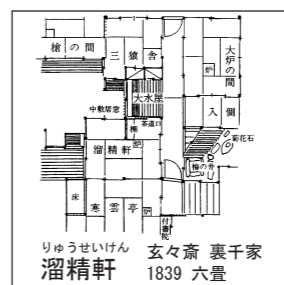
ふしみいなりたいしや 後水尾院 伏見稲荷大社御茶屋 1641 七畳
書院 違い棚前を茶立所 遠州



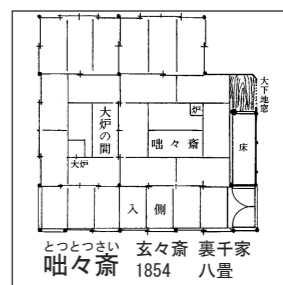
むしきけん 笠叟宗乾 裏千家 無色軒 1790 六畳
茶事の寄付として用いる



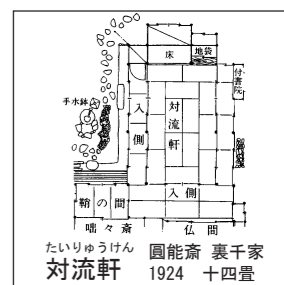
はやかわいおむろ 一指斎 武者小路 早川邸御室の間 1892六畳台目



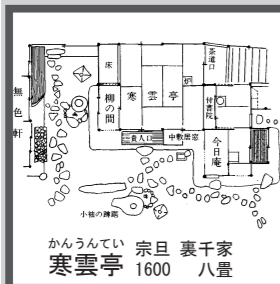
りゅうせいけん 玄々斎 裏千家 溜精軒 1839 六畳
寒雲亭次の間



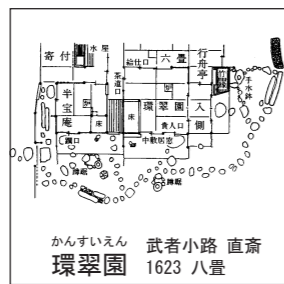
とつとつさい 玄々斎 裏千家 咄々斎 1854 八畳
又隠北方に中坪で隔てられて建つ



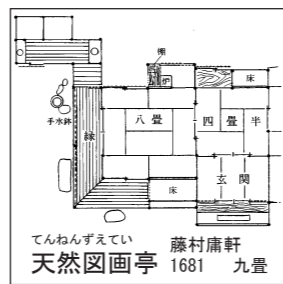
たいりゅうけん 圓能斎 裏千家 対流軒 1924 十四畳
今日庵最大の茶室



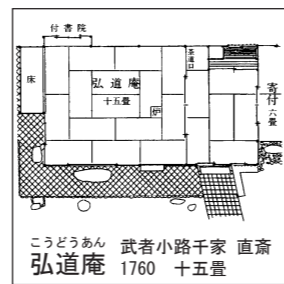
かんうんてい 宗旦 裏千家 寒雲亭 1600 八畳
裏千家最古の書院



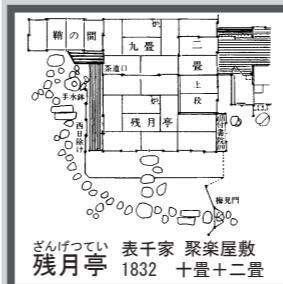
かんすいえん 武者小路 直斎 環翠園 1623 八畳
家元の稽古場



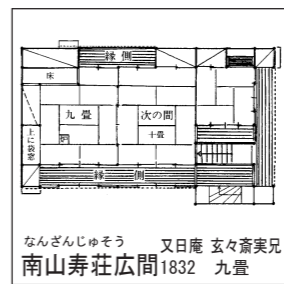
てんねんずえい 藤村庸軒 天然図画亭 1681 九畳
手前座と客座との境に欄間



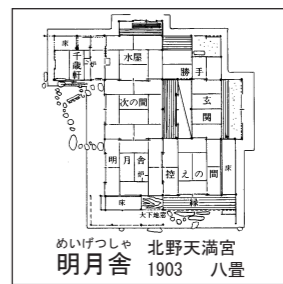
こうどうあん 武者小路千家 直斎 弘道庵 1760 十五畳
丸太長押



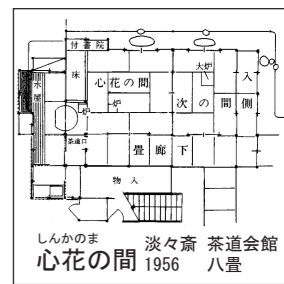
ざんげつてい 表千家 聚茶屋敷 残月亭 1832 十畳十二畳
色付九間 書院



なんざんじゅうそう 又日庵 玄々斎実兄 南山寿荘広間 1832 九畳
階下に捨駕籠席



めいげつしゃ 北野天満宮 明月舎 1903 八畳
千歳軒広間



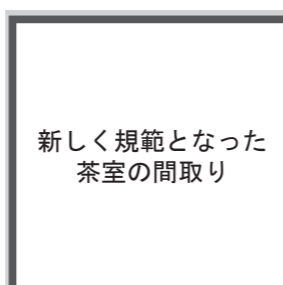
しんかのま 淡々斎 茶道会館 心花の間 1956 八畳
床脇の台目畳にも向切戸



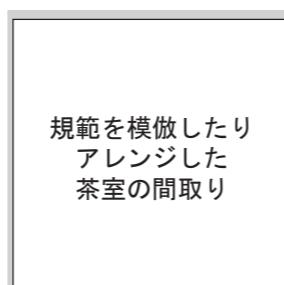
ぼうせん 小堀遠州 忘筌 1608 十二畳
八畳+手前座一畳+相伴席三畳



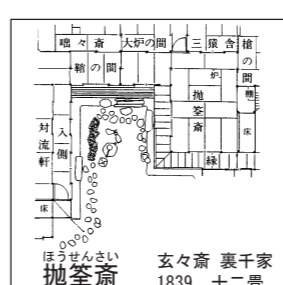
ほうらいのせき 圓能斎 鳳来席 1924 八畳
縁に罫口を設け広間に続く



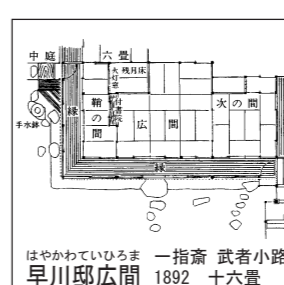
ほうせんさい 玄々斎 裏千家 抛筌斎 1839 十二畳
中庭で隔てて対流軒



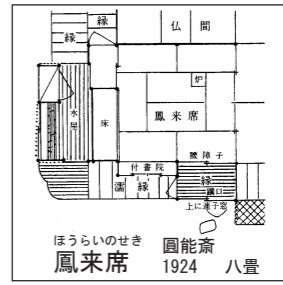
はやかわいひろま 一指斎 武者小路 早川邸広間 1892 十六畳
一指斎好みの細部



ほうせんさい 玄々斎 裏千家 抛筌斎 1839 十二畳
中庭で隔てて対流軒



ほうらいのせき 圓能斎 鳳来席 1924 八畳
縁に罫口を設け広間に続く



ゆうしん 淡々斎 京都裏千家 又新 1963 立礼席十畳
外側に土間廊下=座敷+縁

新しく規範となった
茶室の間取り

規範を模倣したり
アレンジした
茶室の間取り